

多項枝分かれ構造と最小探索

刺田昌信

文京学院大学・慶應義塾大学・早稲田大学（非常勤講師）

本発表は、まず併合の特性について考察する。標準的な理論において、併合は必ず二項枝分かれ構造をつくる操作と仮定されているが、本発表では、多重指定部構造のラベル付けの問題をとおして、多項枝分かれ構造をつくる併合も許されるべきであると論じる。さらに、このような併合の定式化をもとに、日本語の多重主語構文を分析する。特に、この構文に関して日英語間にみられる違いに対し、個別の言語に固有の規則を仮定しない統一的な説明を試みる。また、ここに提示する分析が最小探索操作に対して何を示唆しているのかについても論じる。